

表紙の説明

時代の節目の皇居

偕行写真クラブ 佐藤孝行 陸自70
伏見櫓を背景にした皇居正門石橋
や二重橋の眺めは、皇居前広場で最
も人気がある。これらが眼鏡橋のよ
うに堀の中に美しく見える静まった
瞬間、特に心が引き締まったように
感じてしまう。この向こうには幾多の
日本の歴史が詰まっているのである。

現在、明治150年を過ぎたところだが、江戸時代から捉えれば、この地は、400年以上の日本の中心地としての歴史がある。そしてまたこの5月ここで新天皇陛下が即位され、歴史に新たな1頁が加えられた。元号が代わるとなれば、区切りをつけて時代を総括したくなる。自然に人々の心の在り方も変ってくる。時は連続して流れているはずであり、今年単なる西暦2019年だが、元号で感じると違ってくる。平成最後の…と言われればこの30年間に思いを致してしまい、また令和が始まると気持ちが変わり、別の違うたい時代が始まると感じてしまう。

でもよく考えると、日本人はもともと元号によって気持ちを切り替えてきたのではないか。この不思議な感覚が、絶景の奥の私たちが誇るべき皇室からきていると思うと、日本人としての強いアイデンティティを感じないではいられなかった。